

令和3年3月1日

未来への扉 18

校長 平野 雅仁

みなさん、おはようございます。

弥生・3月。いよいよ令和2年度も残すところ1ヶ月となりました。

卒業、進級に向けて心の準備をしっかりと整えていきましょう。

栃木県足利市の山火事は、3月1日で9日になりますが、まだ完全に鎮火していません。災害は、いつ、どのような形でやってくるかわかりません。

このコロナ禍にあっても「災害」に対しては、常に正しく恐れる必要があります。

さて、令和3年3月11日は、未曾有の大災害・東日本大震災から10年になります。「復興」を掲げてきた人々にとっても節目の年となります。

先日、3月19日から開幕となる第93回選抜高校野球大会の組み合わせ抽選会がオンラインで行われました。

10年前、震災からわずか12日目に行われた第83回大会では、岡山県代表、創志学園の野山慎介(のやま しんすけ)主将が選手宣誓を行いました。

「私たちは16年前、阪神・淡路大震災の年に生まれました。今、東日本大震災で多くの尊い命が奪われ、私たちの心は悲しみでいっぱいです。人は仲間を支えられることで、大きな困難を乗り越えることができると、信じています。私たちに、今できること。それは、この大会を精いっぱい元気に戦うことです」と高らかに選手宣誓を行いました。

また、震災後1年、第84回大会の開会式で、選手宣誓を行ったのは、宮城県代表、石巻工業高校の阿部翔人(あべ しょうと)主将でした。「東日本大震災から1年。日本は復興の真っ最中です。人は誰でも、答えのない悲しみを受け入れることは、苦しいことです。しかし、日本がひとつになり、その苦難を乗り越えることができれば、その先に必ず大きな幸せが待っていると信じています」

阿部元主将は、現在、26歳。石巻高校の教員として、野球部を指導しています。

「監督として甲子園に出場し、今度は僕が、夢のお手伝い、環境づくりをしたい。生徒には、先が見通せない時でも、踏ん張って努力できる人間になってほしい」と抱負を述べています。

そして、今年の選手宣誓は、9年ぶり、東日本大震災から10年、被災地への思いを背負い宮城県・仙台育英の島貫丞(しまぬき じょう)主将が夢の聖地で大役を果たすこととなります。宿命の糸を感じます。

みなさんも高校球児のように当たり前にあった景色がなくなる瞬間でもゲームセットの時までベストを尽くし、夢を追いかけ、最後まで諦めず、今、この命輝くことに感謝し、全身全霊で正々堂々とプレーすることをめざしてほしいと願っています。

様々な困難にあっても「勇気と希望と笑顔」をもって乗り越えていきましょう。

(全校朝礼より)

